

第2回学校関係者評価委員会議事録

- 1 開催日時 平成30年2月15日(木) 13:00~14:30
- 2 開催場所 にいがた食育・保育専門学校えぷろん第二校舎
- 3 出席者
 - 川上 啓介(株式会社シュルプリーズ ルーテシア オーナーシェフ)
 - 蒲沢 百合子(新潟県菓子工業組合 専務理事)
 - 木村 靖臣(すみれ保育園 園長)
 - 神子島 真(神子島製作所 専務・卒業生)
 - 三島 茂(新潟県司厨士協会 名誉会長)
 - 渡辺 建太(株式会社渡森 専務取締役)

以上 6名(欠席は2名 いずれも委任状提出)
学校委員は理事長、学園長ほか2名出席
- 4 会議の内容
 - ア 学園長開会あいさつ
 - イ 委員長選出
 - ウ 委員評価アンケートの結果説明 (事務局)
文部科学省のガイドラインに則り全部で10項目
各項目の評価結果を説明
評価を踏まえての学校の考え及び次年度重点目標を説明
 - エ 質疑・意見
 - (蒲沢委員) 現在えぷろんに海外からの留学生はいるのか?
 - (校長) 以前留学生が2名いた。今までは留学生の受け入れは積極的にしてこなかったが、今後は積極的に受け入れていきたい。
 - (渡辺建委員) ボランティア実践例を教えてください。
 - (教頭) 献血活動、やすらぎ堤や町内のゴミ拾い、募金活動、ジュニアスクールのボランティアなど。
 - (三島委員) 各専門学校の就職希望をみると和食の希望が少ない。和食業界は10年くらい修行しないと一人前になれるから学生にも敬遠されている。昔は「先輩のしごとを見て覚えろ」だったが、今は褒めて伸ばしていかなければいけない。教えるときも優しく教える、怒鳴ったりしない。
同窓会ができるのであれば早くやってほしい。
学校職員は卒業生が活躍している料理会など忙しくてもなるべく参加してあげてほしい。
若い人が続かないので現場は人が足りない。若い人たちに夢を持たせたい。

(木村委員) 他校のガイダンスで、学校説明会の他に学部の教育目標・カリキュラムなどがあり学校のPRをうまくしていた。えぷろんでもどういった教育内容なのかの説明をいれていったらいいんじゃないか。

新しい保育科が調理と連携して現場ではどういった活動をしてくれるのか、具体的に提示してくれるとよい。保育士をしながらどう食と結び付けて教育をしていくのか、バレンタインしかり、おかあさんたちも喜ぶような楽しいもの。

どこにターゲットをしぼってやるのか、飴細工とか造形ものなど具体的な教育内容があったほうがいい。おむつ替えであったり、文字、言葉を教えたり、どういうところに重点をおいていくか詳しく知りたい。

(川上委員) 早期離職者は学校によって違うのか？

(校長) 他の学校のことはわからないが、この4月に就職した学生は今現在で1/5くらいが離職しているのではないかと。年々多くなっているように感じる。

(学園長) 三年は頑張れと学生には言っているが、最近は半年、1年平気で辞めてしまう。考えられることとして気が向かない、辛いなどの理由。辞めるときには常識的に三か月前に言うように指導はしてはいる。

(川上委員) お店をやめた理由のデータがほしい。そうすれば会社も意識するし改善できる。

アンケート用紙とかで学校に来たときとかに聞いてほしい。現場は辞めていく人の理由がわからない。残っている人は自分に非があっても言わないで隠している。

(校長) 今後取り組みを進めていきたい

(神子島委員) 人事制度を作り、半年に一回、1人1人に通知表みたいなものをつかって全員面談する。これをやるとやる気ある人はどんどんレベルがあがるが、やる気のない人はついてこれない。

面接のときにうちの会社はこういうことをしていると提示するとやる気があればそれについて詳しく聞いてくる。やる気があれば自分で勝手に勉強してどんどん進んでいく。2年続けて成果がでている。

学生でもやる気があれば自分で勉強してどんどん上にいくから、そういういい子をサポートして行って大事にしていく。

燕のモノづくりの現場でも海外の人を雇うが、ビザの関係で3年しかおれず、3年じゃ教えられないこともあるのでその数年でどう教えられるのか考える。今は市と連携して宿泊施設を建てたりと町おこしみたいな感じでやっている。えぷろんも行政と連携をとれたらいいのではないかと。

(渡辺建委員) 入学してくる学生の生活環境が違ってきている。社会の環境も大きく変わっている。それに対応するには、今の子は変わっている、弱いで

はなく、感受性が強く敏感になっているということを職員が理解していかなければいけない。

そういう学生達が社会で活躍していくにはどう指導したらいいか、職員が学び続けていかないといけない。職員の教育も必要ではないか。

(蒲沢委員) 今の子供は恵まれ過ぎている。今の子供達はコミュニケーションがとれない。やる気があっても怒られたら我慢ができない。

辞めてなにも仕事しなくても食べていけるから今の時代は恵まれている。

(木村委員) 保育七年目の職員には園の規模によって違うが月4万円給料を増やす。制度が変わる前からずっといる人はさかのぼって渡している。

人事考課、キャリアパスなどが保育業界にはいつてきている。離職率を下げるために、自分はこのまま続けていつて何年後かに自分がどのようになっているか、見えるようにしてあげたい。

(校長) 今は友達同士の給料がいくらかすぐわかってしまう。労働時間の違い、休みがあるのに休みがない人より給料が多いと不満がでる。将来の目標に向けて長い将来を見据えてというのが理解できないから早期離職になってしまっている。

(木村委員) 新しい保育園をつくっているときに調理の話を見ると、足を延ばせる休憩室がほしい、足元に暖房がほしい、食洗器入れてほしいなどの要求がある。保育園は調理師の要望を聞いているところが多い。

(渡辺建委員) 学校は学生の人格、人を育てるところ。どこに重点を置くか。

(神子島委員) 学生のレベルを上げるには先生のレベルをあげる。先生の精神状態を守るため徹底的に話しを聞いてあげたほうがいいのではないか。

面談していくと自然と仕事をしてくれる。一人じゃ精神的にもだめになるから会社から個人と連携していく。

オ 理事長閉会あいさつ

委員の意見、指摘をとりいれて学校運営を進めていきたい。